# 八十周年

ありがとう。これからも一緒に。



# じぶんの町を良くするしくみ。
# 80周年を迎える赤い羽根 共同募金の歴史とこれから

厚生労働大臣の告示により、毎年10月1日から全国一斉にはじまる赤い羽根共同募金運動。昭和22（1947）年に第1回運動が行われ、今年で80回目を迎えます。

戦後復興期から令和の時代に至るまで地域福祉の課題に寄り添い続けてきた共同募金の歴史とこれからについて、（福）大阪府共同募金会　深津友剛（ふかつゆうごう）常務理事と内藤（ないとう）佳那子（かなこ）さんに聞きました。

## 地域の「困りごと」に寄り添って80年

昭和22（1947）年の戦後間もない頃、「国民助けあい運動」として第1回目の運動が開始されました。戦争の被害を受けた福祉施設の復旧など、民間の地域福祉の助けあい運動が出発点でした。

その後、時代の変化にあわせて高齢者、障がい者、子ども・若者、生活困窮者など、さまざまな福祉的課題をもつ人を支援する、〝支える人を支える〟しくみへと広がっていきました。

また、阪神・淡路大震災を機に、被災地支援団体への活動助成や災害ボランティアセンターへの運営助成など、災害・被災地支援にも取り組んでいます。平成30（2018）年6月18日に発生した大阪府北部地震では、「大阪府北部地震に係るボランティア・NPO活動支援金」への寄付を募集。屋根の応急処置（ブルーシート貼り）や家屋の復旧作業、被災世帯への戸別訪問など、全国から駆け付け、被災地に寄り添いながら活動を行う団体へ計13，571，873円の助成を行いました。

子ども食堂や学習支援、外出が困難な人が気軽に外出できるための移送ボランティア、生活困窮者への食材支援、被災地での支援活動…。共同募金は80年の歴史の中で常に、地域で今まさに困っている人たちを〝支える人〟を支え続けてきました。

## さまざまな募金運動のかたち

募金運動の種類は、戸別募金、街頭募金、学校募金、職域募金、法人（企業）募金などさまざまです。

募金方法も、募金箱の設置などに加え、インターネット募金やPayPayを使った募金など、時代にあわせて拡大してきています。

## 赤い羽根共同募金で重点的に助成する活動






四天王寺での街頭募金のようす

運動期間は10月1日～3月31日の6か月間。そのうち1月～3月の3か月間は「テーマ型募金」が行われます。

テーマ型募金は「子どもたちの居場所づくり」や「災害に強いまちづくり」など、具体的なテーマを掲げ、問題解決に取り組む団体の活動に助成するしくみです。活動者自身も一緒に募金の呼びかけを行います。「テーマがより明確であるため、活動者の思いが一般募金より寄付者に伝わりやすい」と内藤さんは話します。

## 募金から生まれる協働のしくみ

共同募金運動は、寄付金を集めるだけではありません。

ある地区では、市町村社協と地元小学校が連携して行う福祉教育で、ボランティア活動や共同募金についての講座を実施。その後児童が地域の民生委員とともに街頭募金活動を行うなど、福祉教育と地域交流を両立しています。

またある地区では、共同募金担当者である市町村社協職員が商店を訪問し、共同募金の説明を行ったところ、募金への協力に加えて店主が市町村社協が主催するボランティア活動にも参加することに。共同募金から地域活動への参加につながりました。

募金運動を通して、人と人とのつながりが生まれ、地域の活動に参加するきっかけにもなっていることがわかります。

## これからの時代に必要な共同募金の役割

大阪府の一般募金額は、平成8年度（阪神・淡路大震災発生の翌年）の732，762，408円をピークに減少傾向となっています。「さまざまな要因が考えられるが、募金方法の多様化や、地域における福祉課題の複雑化が関係しているのでは」と深津常務は話します。

インターネットを通して多くの人から活動趣旨への共感と資金を集めるクラウドファンディングなど、近年の寄付のかたちはさまざまです。同時に、人々の寄付動機も多様化しています。

一方で、共同募金の「地域福祉のため」という目的や具体的な使途が、寄付者に見えづらいという課題が浮き彫りになっています。深津常務は「寄付したお金が自分たちの町でどのように活用されているのかが伝わるよう、広報に力を入れていきたい」と語ります。HPのリニューアルをはじめ、より視覚的にわかりやすく伝わるよう、動画を使った広報のあり方を検討しています。

そんな中、助成先の引きこもり支援団体と連携し、不登校や引きこもり経験のある若者が、共同募金が支える地域活動の紹介動画を作成することに。若者が直接地域に出向き、活動団体への取り組む人たちを支えています。つまり、寄付者は地域福祉活動の参加者でもあるのです。

インタビューや撮影、動画編集を行うことで、社会参加の機会につながっています。

共同募金は、地域福祉の課題解決に

一人ひとりの寄付が地域の活動を支え、めぐりめぐって自分たちの町に還元されていく。赤い羽根共同募金はこれからも**じぶんの町を良くするしくみ。**として、支えあいを未来へとつないでいきます。


セレッソ大阪ホームゲームでの街頭募金のようす

